

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2013-11-15

# APM news 095

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)

上組小学校 こだま美術館 第31回企画展

「地域に感謝 未来に翔(は)ばたけ 秋山孝ポスター美術館」関連企画

### 「小学生美術館大学」

10月25日(金) am 10:00～11:00  
受講者: 100名/講師: 秋山孝



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233



10月25日(金)、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)では長岡市立上組小学校6年生を招待し、小学生美術館大学を開催した。上組小学校で10月25日(金)～11月1日(金)に開催されたこだま美術館・第31回企画展「地域に感謝 未来に翔(は)ばたけ 秋山孝ポスター美術館」に合わせた企画である。こだま美術館とは、上組小学校が総合的な学習の時間でやっている美術館の企画・運営を通した取り組みである。児童たちがプロジェクトの企画・運営を通して、「主体的、創造的、協同的に取り組む態度を向上させていくこと」、「地域の人やもの、こととのふれあいを通して地域とつながり、生き方を考えていくこと」を目標として行われてきた。教室のひとつを「こだま美術館」と名づけ、1999年から30回もの企画展が開催された。

小学生美術館大学は、上組小6年生の質問を受けるところから始まった。「ポスターを作るとき、迷ったりしませんか」という質問に対しては、「とても迷います。悩みます」と答え、1988年制作の「Peace Face」を紹介した。「Peace Face」は、「平和」をテーマとした展覧会に出品した作品で、制作する際に平和とは何かを幾日も考えたという。考え抜いた結論として出した答えは、平和とは一瞬でしかない、というものであった。特別な日や恒常的なものではなく、日常の中に潜む一瞬の平和こそが、真の平和であると答えを出した。そこで秋山館長は夜空に作られる一瞬を描き、「Peace Face」と名づけた。今回こだま美術館で開催された「秋山孝ポスター美術館」では、14点のポスター作品が展示された。これらの作品は上組小6年生が「地域」「未来」というテーマに沿って選んだものである。6年生は小学生美術館大学で、自分たちが選んだ作品の解説を作家本人から聞き、さらに理解を深めた。

実は、秋山館長がこだま美術館に関わるのは今回が初めてではない。2000年に「上組こだま美術館・秋山孝と子どもたち展」を長岡市立中央図書館ギャラリーで行っている。そのときの小学生も成人し、今はそれぞれの道を歩いていることだろう。秋山館長の講演を覚えている児童もいるかもしれない。秋山館長自身、学生時代に影響を受けた先生方がたくさんいる。「ぼくはぼくであって、ぼくではない」。そう語る秋山館長は、小学校、中学校、高校、大学の先生、そして家族、友人、仲間、大勢の影響を受けて、今の自分があるのだと上組小6年生に向けて説明した。今回の小学生美術館大学が、こだま美術館での展示が、将来の彼らを形作る一部となるであろう。(APM公式ホームページより抜粋)

